



大宮知信

## 人生「二毛作」

おおみや・ともものぶ ノンフィクション・ライター。1948年、茨城県生まれ、中学卒業後、集団就職。週刊誌編集者など二十数回の転職を繰り返す。現在に至る。「平山郁夫の真実」(新潮社)「死ぬのにくらかかるか!」(祥伝社)など著書多数。

今回登場いただく南部なおとさん(本名・南部直登、65)は、生命保険の営業マンで、自らの曲を歌う歌手。「二毛作」というより「二足のワラジ」だ。

名刺は「歌うセールスマン」の肩書のもと、日本生命横浜支社横浜関内営業部のもと2枚ある。というところは「ニッセイのおばちゃん」ではなく、「おじちゃんですね」と笑った。気さくな人だ。この一言で初対面の緊張が解けた。福井県生まれの団塊の世代。子供のころはバイオリンを習っ

ていたが、テケテケサウンドのベンチャーズにしびれてギターに転向。プロのジャズギタリストを目指して上京し、1976年に自前の歌謡コーラスグループの

「あなた横浜私は神戸」でメジャーデビュー。折しも時代は歌謡コーラスブームだったが、いまち波に乗れず、解散。その後、バーやキャバレーなどで演奏するハコモノバンド「トワイライトゾーン」を結成したが、カ

ラオケの台頭で、これもトワイライト(黄昏)ゾーンに入ってしまった。34歳までは音楽一筋の生活。

たまたま出演していた店でお客のセールスレディーに「保険の仕事やってみない?」と声を掛けられたのが、保険の営業マンになるきっかけ。「いつまでも



熟年世代の応援歌を歌う南部なおとさん

# 「歌うセールスマン」で31年 熟年世代に人生の応援歌を

目。昨年9月に自主制作CD『盛春(せいしゅん)の歌』をリリースした。「団塊の世代に、みんな年を取っても夢を抱いてがんばっていきましょう」という思いを込めました。すでに会社は定年になったが、横浜の日本生命ビルに個人事務所を置いて仕事を続けている。

「とにかくヒット曲を出すのが僕の夢。色恋を歌う歌手はたくさんいるけど、熟年世代の応援歌を歌える歌手は僕しかない」と思っています。「夢を持って働いているうちはずうっと青春だ」が信条。高齢者の仲間入りをしたが、リタイアなんてまだまだ先。まさにいまが「盛春」だ。